日本４７０協会 理事会

開催日時：　2012年11月24日（土）17：00～（予定）
開催場所：　銀星旅館１階　会議室
出席予定者：　渡邊、倭、松山、戸張、秋元、五味、加藤、浅原、中村、小松、佐藤、相澤、京黒、川上、岩崎、三船、渡邊、信時、武田、葛西（敬称略）20名
オブザーバー　倉持様（東北水域）

議　題

1. 国際４７０協会総会の報告（戸張理事）
2. 強化から（中村理事）
   - ・リオ・オリンピック日本代表選考（案）
   - ・女子ダブルハンド試乗会について（12月開催）
   - ・強化について（合宿・遠征）
   - ・420支援について（意見交換）
   - ・今後のジュニア/NTの選考について（意見交換）
   - ・国内レース飽和状態の改善（意見交換）
3. スタープラン3年間の実績について（意見交換）（信時）
4. 水域予選 枠・全日本出場の条件について（信時）
5. 全日本学生ヨット選手権大会における大会計測について（川上）
6. 計測委員会事務局の現状報告（京黒）
7. その他
   - ・理事承認
   - ・来年・再来年の開催地候補について

※順番は変更する可能性があります

国際470協会 年次総会

2012年 11 月9日　アイルランド　ダン・レアリー

1　主要大会開催地

	2013	2014	2015
世界選手権	フランス ラ・ロシェル 50周年 7/31 – 8/9	スペイン サンタンデール 9/1 – 9/14(予定)	イスラエル ハイファ 未定
ヨーロッパ選手権	イタリア フォルミア 9/5 – 9/15	ギリシャ アテネ	デンマーク Aarhus
ジュニア・ワールド	フランス ラ・ロシェル 7/27 – 8/3	イタリア セルビア	未定
ジュニア・ヨーロピアン	イギリス Pwlheli 7/27 – 8/3	ポーランド Gdynia	ブルガリア ブルガス

2　役員改選 (Management Committee)

会長	Stanislav Kssarov (BUL)
副会長	Nino Shmueli (ISR)
Secretary General	Iullia Negoescu Fulicea (ROU)
Technical	Dimitris Dimou (GRE)
Treasurer	Alain Champy (FRA)
Member	Fernando Sesto (AEG)
Member	Kevin Burnham (USA)
Member	Mat Belcher (AUS)
Member	Andreas Kosmatoploulos
Member	Tomoaki Tsutsumi (JPN)

3　クラス規則関連

ウェブで検索・閲覧可能なメジャメントフォーム導入
メインセールへの国旗掲載
他

4 その他

420・470 合同クリニック
ジュニア・クリニック
コーチセミナー
470 サポート・プログラム
470 ジャッジ・プログラム
470 メジャメント・プログラム

以　上

リオデジャネイロ五輪選考方針(案)

検討項目

・選考方針作成にあたり、対象となる種目(選手)を3グループに分けて考えた
①ファイナリスト(メダルレース進出種目・選手)
②国別順位**15位以降**
③五輪出場枠獲得目標

・グループごとに選考方法が異なると想定し、選考方法、大会・期間を決定する。その指標としては五輪国枠選考大会にて出場国枠を獲得した時期、順位から対象艇種グループ(ランキング)を定め、選考方法を決定する。(修正、変更も同様)

A. 第1回五輪国枠選考(＊仮称) 2014年国枠獲得艇種 ⇒ ①の可能性が高いクラスと判断し、特化した選考方針を作成

特化した選考方針:①選考大会の選定(大会数・時期・五輪コンディション)
②選考大会参加チーム
③リオ五輪の風域を考慮した選考方針の導入
④代表決定後の準備期間の確保(8～10カ月が目安)

B. 国枠獲得達成するも**16国順位**以降 ⇒ ①に昇格するか③に降格するかの判断時期が課題
①に準ずるのであれば特化した選考項目の導入を検討
③に降格するのであれば国際大会での強化、経験も有益と考え、単一大会での選考を採用

選考方針 :①選考大会の選定(大会数・時期・コンディションをどの程度考慮するか)
②選考大会参加チーム
③リオ五輪の風域を考慮した選考方針の導入

C. 最終五輪選考で五輪国枠を獲得する艇種(選手) ⇒ リオ五輪国枠獲得が優先されることと、対象選手の急速なレベルUPがあることを予想し
リオ五輪準備**期間の確保**よりも代表選考時期を優先した方針の作成

五輪選考におけるグループ分け:グループA艇種(選手)には、ファイナリスト(メダルレース進出選手)選手としての五輪準備期間を設けること、
グループB、C艇種(選手)には競争の場を設けて、その競争からファイナリストへステップUPする環境を支援することが必要と考える。

ファイナリスト(メダルレース進出選手)艇種
・オリンピック**10カ月前**までを目途にグレード1大会等の中から**3大会**を指定し選考会を実施

用語説明

五輪国枠選考大会・・・ISAF主催または指定大会で開催される五輪国枠が配分される大会

五輪国内選考大会・・・JSAFオリ特主催又は指定の大会で開催される、五輪国枠選考大会日本代表者を決める大会

五輪最終選考大会・・・JSAFオリ特指定大会、日本代表選手が決定

2013年

＊2014年第1回五輪国枠選考大会代表チーム選考
2014年1月までに実施
選考大会：NT選考大会又はオリ特指定大会
開催地：国内
選考内容・人数：第1回選考大会の参加条件による

2014年

第1回五輪国枠選考大会（2014年ISAF World　ｽﾍﾟｲﾝ）

YES

五 輪 国 枠 獲 得

No

国別順位10位＊以内

国別順位については各クラスごとに検討が必要

No

YES

2015年

「五輪国内選考大会」
2015年1月までに実施
主催：NT選考大会又はオリ特指定大会
開催地：国内
選考：2チーム

「五輪国内選考大会」
2015年1月までに実施
主催：NT選考大会又はオリ特指定大会
開催地：国内
選考：3チーム

第2回五輪国枠選考大会代表選考
2015年1月までに実施
選考大会：NT選考大会又はオリ特指定大会
開催地：国内
選考：　第2回選考大会の参加条件による

＊五輪日本代表候補：2015年1月までに実施する選考大会の上位2チームと2014年第1回五輪国枠選考大会の国別10位＊以内のチームで編成

＊五輪日本代表候補：2015年1月までに実施する選考大会の上位3チームで構成される。
＊選考大会数　　：2~3大会
＊選考方法の採用　：（*1）の判定順位を変更し使用
（*2）については変更なし

2015年第2回五輪国枠選考大会

五 輪 国 枠 獲 得

YES

NO

「五輪最終選考大会」
2015年12月までのオリ特指定大会にてリオ五輪日本代表選手選考を実施。
指定対象大会：ｸﾞﾚｰﾄﾞ1大会、大陸別選手権(仮称)等から3大会を指定し選考（＊1）、（＊2）
選考期間　　：2012年3月～2015年12月

「五輪最終選考大会」
2015年12月までに日本国内で開催
選考大会：NT選考大会又はオリ特指定大会
開催地：国内
選考方法：風域を指定したレースの採用

「五輪国内選考大会」
2015年12月までに日本国内で開催
選考大会：NT選考大会又はオリ特指定大会
選考人数：第3回選考大会の参加条件による

2016年

選考方法：各レース15位以内に入った順位を相対評価でポイント化し、大会の総合得点を算出低い
（＊1）　チームを代表とする。
相対評価ポイント・・・総合成績÷参加艇数を獲得ポイントとする。なお16位以降の順位については一律1ポイントとする。
例）大会1　50艇参加大会のA艇10位とB艇16位の場合：10位＝0.2、16位＝1.0
大会2　35艇参加大会のA艇16位とB艇10位の場合：16位＝1.0　10位＝0．285
大会2　65艇参加大会のA艇14位とB艇12位の場合：14位＝0.215、12位＝0．185
獲得ポイント：A艇　1.715　B艇　1.47
（＊2）　：リオ五輪の風速を考慮した選考の採用
例）平均風速12Knt未満のレースのみカウント
（＊2）の採用にあっては対象となるレースごとに相対評価ポイントを算出し1大会の成績を算出

2016年第3回五輪国枠選考大会

選考方法：当該大会において五輪国枠を獲得し、総合成績最上位選手、チームを代表とする。

リオ五輪代表

2012年女子ダブルハンド艇 試乗合宿(開催公示)

2016 年リオ・オリンピックに向け競技者としての目的意識を持ち、オリンピック出場を目指す意思を持つ女子選手を対象に重点種目である470級と新種目49erFX級の2艇種ダブルハンド艇の試乗機会を作り、2艇種へのさらなる関心を持っていただくための合宿形式による試乗会を開催します。

女子選手の奮っての参加をお願いいたします。

1. 主　催　公益財団法人 日本セーリング連盟 (オリンピック特別委員会)

2. 協　力　NPO 法人和歌山セーリングクラブ、日本470クラス協会、日本49er 協会

3. 日　時　2012年12月26日(水)～29日(土) 4日間

4. 開催会場　和歌山セーリングセンター(セーリング・ナショナルトレーニングセンター)
〒640-0014 和歌山市毛見1514番地
TEL 073-448-0251
http://www.wakayama-sailing.org/

5. 使用艇　49er FX, 470
(参考) http://jsaf-osc.jp/cn06/pg20-27.html

6. 参加資格　各クラス全日本選手権、国民体育大会にて上位の成績を収めた者。

7. 参加申込手続き方法・期日

参加申込:2012年11月26日(木)〆切

自己推薦書兼参加申込書にてオリンピック特別委員会宛に Email または FAX で送付する。
参加申込み締切り後、参加承認選手を決定、参加承認を得た選手は指定銀行へ参加料を振り込む。

＊送金先指定銀行については参加承認通知に併せて通知する

E-mail : mam-olytoku@jsaf.or.jp
FAX:03-3481-0414

＊参加者が未成年(18 歳未満)の場合、親権者の署名、捺印の上、FAX した上で原書を郵送のこと。

送付先: 公益財団法人 日本セーリング連盟
〒150-8050 東京都渋谷区神南1－1－1

8. 合宿参加費

15,000円(宿泊費、昼食代、施設使用料含む、宿泊予約は主催者にて実施)

9.交通費補助

参加選手に自宅から会場までの JR 往復交通費の 2/3 を補助する。
また、遠方選手は航空機の利用を可とするが、その場合可能な限り割引運賃を利用すること、補助については、その運賃の 2/3 を補助する。
利用航空会社または旅行代理店の領収書を提出すること。

＊航空機利用の場合は参加申し込み時に届け出ること

10. コーチ

オリンピック特別委員会コーチ他

11. スケジュール

日程	時間	内容	備考
12月26日	15:00 18:00～ 19:00～	集合、受付 和歌山セーリングセンター 合宿準備 夕食 ミーティング(栄養講習会)	合宿準備、練習説明
2日目 以降	9:00～ 10:00～16:00 18:00～ 19:00～	集合、ミーティング 試乗会 夕食 ミーティング	試乗会説明 ミニレースを行う
最終日	9:00～ 10:00～15:00 15:30～ 17:00	集合、ミーティング 試乗会 片付け 解散	まとめ フィードバック

(注)＊スケジュールに関しては変更することがある。(気象状況で練習時間内容等の変更あり)

12. 保険

参加選手は任意の傷害保険、賠償保険(対物500万円以上、対人3,000万円以上)に加入のこと。
＊JSAF HPに記載の2012年度版JSAF保険制度の2 スポーツ安全保険を推奨する。

13. 責任

参加者は、自己の責任において、この合宿に参加するものとする。主催団体、またはこの合宿に関わる運営役員、ボランティアは、参加者の合宿前、合宿中、合宿後の死亡、怪我、病気またはその他の物質的な損害についての責任を負わない

14. その他

1)交通費補助金額算出のため、自己推薦書兼参加申込書に自宅最寄り駅を記入のこと
合宿参加時に印鑑を持参のこと

2)健康保険証を持参のこと

3)海上での乗員交代が行われるため、防寒着を持参すること

15. 宿舎

ホテル アバローム紀の国
〒640-8262　和歌山県和歌山市湊通丁北２－１－２
TEL 073-436-1200 (FAX)073-436-8866

16. 問合せ先

中村 健次(オリンピック特別委員会 ナショナルコーチ)
E-mail :mam-olytoku@isaf.or.jp

以上

H25予定

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
土						1								1	1
日						2			1 ベッセルワールド			1		2	2
月				1		3	1		2			2		3	3
火	1			2		4	2 470合宿日程調整（6月		3	1		3		4	4
水	2			3	1	5	3 470合宿日程		4 ISAF pre時期未定	2		4	1	5	5
木	3			4	2	6	4	1	5	3		5	2	6	6
金	4	1	1 AC合宿	5	3	7	5	2	6	4	1 インカレ	6	3	7	7
土	5	2 RSXワールド	2	6	4	8	6	3	7	5	2	7	4	8	8
日	6	3 ブラジル調査	3	7	5	9	7	4	8	6	3	8	5	9	9
月	7	4	4	8 470スプリングカップ	6	10	8	5	9	7	4	9	6	10	10
火	8	5	5	9	7	11	9	6	10	8	5	10	7	11	11
水	9	6	6	10	8	12	10	7	11	9	6	11	8	12	12
木	10	7	7	11	9	13	11	8	12	10	7	12	9	13	13
金	11	8	8	12	10	14	12	9	13	11	8	13	10	14	14
土	12	9	9	13	11	15	13	10	14	12 青島WC	9	14	11	15	15
日	13	10	10	14	12	16	14	11	15	13	10	15	12	16	16
月	14 470合宿日程調整（470テストに併せる計画）	11	11	15	13	17	15	12	16	14	11	16	13	17	17
火	15	12	12	16	14	18	16	13	17	15	12	17	14	18	18
水	16	13	13	17	15	19	17	14	18	16	13	18	15	19	19
木	17	14	14	18	16	20	18	15	19	17	14 470合宿日程	19	16	20	20
金	18	15	15	19 イエールWC	17	21	19	16	20	18	15	20	17	21	21
土	19	16	16	20	18	22	20	17	21	19	16	21	18	22	22
日	20	17	17 470合宿日程	21	19	23	21	18	22	20	17	22	19	23	23
月	21	18	18	22	20	24	22	19	23	21	18	23	20	24	24
火	22	19	19	23	21	25	23	20	24	22	19	24 470合宿日程調整	21	25	25
水	23	20	20	24	22	26	24	21	25 アジア選手権	23	20 全日本470	25	22	26	26
木	24	21	21	25	23	27	25 事前合宿	22	26 pre	24	21	26	23	27	27
金	25	22	22	26	24	28	26	23	27	25	22	27	24	28	28
土	26 マイアミWC	23	23	27	25	29	27	24	28	26	23	28	25		29
日	27	24	24 ユース合宿？？	28	26	30	28	25	29	27	24	29	26		30
月	28	25	25 和歌山	29	27		29	26	30	28	25	30	27		31
火	29	26	26	30	28		30 470ワールド	27		29	26	31	28		
水	30	27	27		29		31	28		30	27		29		
木	31	28	28		30			29		31	28		30		
金			29		31			30			29 メルボルンWC		31		
土			30					31			30				
日			31												

平成24年8月吉日

高校総体および国体少年種目変更のための
練習艇（420級）購入資金援助のお願い

日本セーリング連盟、ユース制式艇種委員会では、高校総体（インターハイ）および国体の少年２人乗り種目を「国際420級」に変更／統一するための資金集めを行っております。

現在、インターハイと国体の種目が異なっていることから、この両大会を目指す高校ヨット部（ないしは都道府県連）は2種目のレース艇を用意しなければならず、大きな経済的負担を強いられています。この両大会の種目を統一することによって、各校ヨット部の経済的負担を軽減しようというのが第一の理由です。

また、高体連に加盟している高校ヨット部に所属することなく、ジュニアやユースなどのクラブ組織をベースに競技活動をしているセーラーも増えてきています。ところが、同じ世代であるはずの彼らは、それぞれ異なった大会を目指した活動をしていて、同じ土俵で戦う環境がありません。その障壁の一つとなっているのが、インターハイと国体に採用されている種目の問題であり、彼らユース世代が活動する土俵を１つに統一することで、よりコンペティティブな環境を創り出そうというのが第二の理由です。

これら２つの条件を満たす艇種が420級であるというのが私たちの出した結論です。ISAFユース世界選手権の種目に採用されるなど、ユース世代の2人乗り艇種として世界的に最も普及しているクラスであり、高いレベルを目指して活動するセーラーをも満足させる舞台が整っています。また、クラスルールが厳格に定められており、道具（フネやマスト）の善し悪しよりも、セーラーの力量がストレートに問われるクラスであることは、育成段階にあるユース世代のセーラーが取り組むに相応しいものだと考えます。

しかしながら、この芳しいとは言えない経済状況の下、種目変更に伴う艇の買い換えに耐えられる経済的基盤を持つ高校ヨット部は多くありません。JSAFでは、高体連に加盟する高校ヨット部123校に、練習艇として420級1艇を提供（無償もしくは一部負担）することで、艇種変更に伴う高校ヨット部の負担を軽減するという方法を採ることにしました。そのためには、概算で6千万円の予算が必要となります。一部はJSAFの資金でまかない、その他、関連団体や企業からの献金を募るとしても、相当分が不足する計算となります。この不足分について、現在のユース世代の先輩に当たる皆様に広くご負担いただけないだろうか、というのが今回お願いしている寄付の主旨であります。

ユース世代に自ら活動する環境を整えることはできません。若い彼らが安心して活動できる環境を用意することは、私たち大人の義務です。日本に住む全てのユース世代のセーラーたちが、日頃の鍛錬の成果を思う存分発揮できる大きな一つの土俵を創り出すために、皆様のご理解とご協力をあおぎたくお願い申し上げます。

公益財団法人 日本セーリング連盟
会長　河野博文

NPOにて
法人格

書面を出してもらう

会員に募金

420 Sailing

Copyright 2011 | All Rights Reserved

470の協会

高校生に４２０を届けよう！
一口募集・申込サイト

全国の高校生セーラーに４２０を届けよう！

私たちは、高校総体（インターハイ）と国体少年2人乗り種目の制式艇として国際４２０級の整備・普及を決定しました。
より多くの高校生にコンペティティブなセーリングトレーニングの環境を提供し、国際的に通用するユースセーラーを育てようとするものです。

2000万
2014年までに

整備目標：１２３艇（２年内、全国高体連加盟高校数） 70万の半額
目標金額：総額６０００万
うちJSAF資金見込み４０００万円 35×123＝4305
目標：　募金４０００万円
一口１００００円、何口でも。

本募金は免税処理が受けられます。
免税処理希望の方は登録の際、免税処理希望の有無を記入ください。

次世代を担うユースセーラーを育成するため、募金活動へのご協力をお願いします。

JSAF 会長　河野博文
メッセージ

応募登録

この募金にご賛同いただける方は、次の登録フォーマットでご登録ください。登録確認後、自動的に確認メールが届きます。

お名前
姓
名
法人様の場合　法人名
申し込み口数　　口
免税処理希望　○希望する　○特に希望しない
ご住所
〒
都道府県名

「JSAF NATIONALSの開催」についての提案書

（公財）日本セーリング連盟
オリンピック特別委員会
ジュニア・ユース育成強化委員会
2012年11月10日

現在の全日本選手権大会

- 現在の各クラスの全日本選手権は、それぞれのクラスが、それぞれの地域で、それぞれの日程で行っている
- これは、水泳競技などに例えると、バタフライ競技は5月に東京で、自由形競技は11月に大阪でなど、ばらばらに行っているのと同じである
- それぞれの全日本選手権開催には、人的努力と費用が必要であり、開催時期も異なっているために、日程の調整が困難である

↓

JSAF NATIONALSの開催

- オリンピッククラスの全日本選手権を合同開催する
- ユースクラスの全日本選手権を合同開催する

対象となる種目

オリンピッククラス

49er級　男子・49er FX級　女子
470級　男子・470級　女子
Laser級　男子・Laser Radial級　女子
ｶｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ　男子・ｶｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ女子
Finn級　男子
Nacra 17級　ミックス

ISAFユースワールド種目

420級　男子・420級　女子
Laser Radial　男子・Laser Radial　女子
RS:X級　男子・RS:X級　女子
29er級　オープン
ﾏﾙﾁﾊﾙ　オープン

メリット

- 大会冠スポンサーの獲得が期待できる
- 時期を合わせることで、強化合宿等の日程が組みやすくなる
- ワールドカップに準じたレースのスキルを身につけることが出来る
- 大会運営コストを抑えることができる

VS

デメリット

- 各クラスの全日本選手権におけるポリシーと相違が生まれる
- 複数海面でのレース運営が可能な場所が限られる（2海面以上）

JSAF NATIONAL開催への提案

- オリンピッククラス・ユースクラスを隔年開催とし、2年に1度は各水域での持ち回りのクラス別全日本選手権を行う。

  奇数年はオリンピッククラスの開催

  偶数年はユースクラスの開催
- プレ国体、またはその水域を活用してナショナルズを開催する

  現在行われているプレ国体をJSAF NATIONALSとして活用する

スタープランの実績について

◆ 日本470協会のビジョンと目標

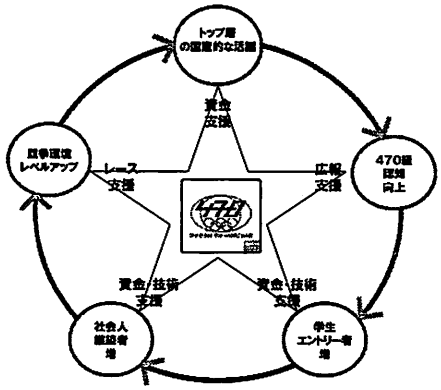
我々のビジョン： 470級のコンペティティブな環境での活動を通じて、どの艇種に乗ってもトップレベルで活躍できるセイラーを育成し、日本セーリング界の発展に寄与する。
アジアの中でのリーダーとして、アジア各国の成長に寄与する。

我々の目標： 国内470セイラーの競技力向上、470クラスの活性化、会員の増加をはかる
各水域のレースでの参加艇総数を 2014 年までに 1.5 倍にする（ 対2008年度）

上記ビジョンと目標に向け、日本470協会は 2010 年より 470スタープランを始動致しました。

◆ 470スタープランとは

「トップ層の国際的な活躍」→「470 級の認知度アップ」→「ヨットを始める学生の増加」→「学生卒業後も 470 を継続する社会人の増加」→「レースのレベルアップによりセイラーが成長できるコンペティティブな環境の実現」→「トップ層の厚みが増すことによる、さらなる国際的な活躍」 の好循環を目指します。
470 級が発展するための起点となるのは「トップ層の国際的な活躍」です。
そして、その経験とノウハウを次世代セーラーにフィードバックすることで全体の底上げを図ることが重要だと考えています。



◆ トップ層の国際的な活躍に向けた支援

- 資金不足の選手をバックアップするため海外遠征費用を補助します。
- 下記の条件に該当するチームの中から選考の上、海外遠征費用（支援金）を補助するプランです。

対象チーム数： 男子4チーム、女子4チーム （男女合計 8チームまでとする）

申込資格： 前年度全日本470上位チーム（学生も含む）

支援金額： 1遠征1チーム10万円（年間2遠征まで ※2回目の遠征支援金額は1回目の遠征の状況を見て検討する。）

支援条件： ・遠征のレポート提出。日本470協会のHPに掲載予定。（レポートフォームは支援対象者に後日連絡）
・U22向けの強化の企画・指導に協力すること

提出書類・審査： 海外遠征支援申込書に必要事項を記入
①470界にどのような貢献ができる可能性があるのか
②支援金の使用用途の計画

選考方法： 締切り後、速やかに厳正なる選考を実施し、支援対象者には直接ご連絡します。
また、支援対象者は日本470協会 HP にて広報致します。

◆ U22層の国際的な活躍に向けた支援

U22 対象選手に対する資金援助支援は、470 ジュニアワールド出場選手対象に行います。

- 下記の条件に該当するチームの中から選考の上、海外遠征費用（支援金）を補助するプランです。

対象チーム数： 【U22】 男子2チーム、女子2チーム （【U22】・・・アンダー22歳）

申込資格： ジュニアワールド出場選手

支援金額： 1チーム10万円

支援条件： ・遠征のレポート提出。日本470協会のHPに掲載予定。

提出書類・審査： 海外遠征支援申込書に必要事項を記入
①470界にどのような貢献ができる可能性があるのか
②支援金の使用用途の計画

選考方法： 締切り後、速やかに厳正なる選考を実施し、支援対象者には直接ご連絡します。
また、支援対象者は日本470協会 HP にて広報致します。

◆ 江ノ島オリンピックウィーク』学割制度

『江ノ島オリンピックウィーク』に学割制度を適応する。
費用：5千円（通常1万4千円が9千円）×約30チーム＝15万円

◆ 全日本470級ヨット選手権大会 兼 全日本女子470級ヨット選手権大会の出場権および支援金制度

学生トップ層のさらなる競技力向上を図るため、参加資格を満たした選手に対し全日本470兼全日本女子470への推薦をし、また出場するチームについては支援金を給付する。

■推薦の条件
・「全日本学生ヨット個人選手権大会」および「全日本学生女子ヨット選手権」のそれぞれ上位3艇のスキッパー
※地元水域の470選手権で権利を取得済みの艇が該当した場合、6位まで繰り下げ出場権を与える。
※辞退した場合の参加資格の繰り下げは行わない。
※女子チームについては、全日本学生女子ヨット選手権に出場したクルーがやむを得ない事情により出場できない場合、女子のクルーのみ変更を許可する。

■支援額について（2010 年 9 月 30 日決定）
・上位3艇については、水域予選で枠を取っている・いないに関わらず、出場チームに支援額を支給する。
（全日本470に出場しないチームには支給しない）
・支援額は遠征費を考慮して出場水域と開催地の距離にて算定する。（下表参照）
・繰り下げで出場権を得た4～6位のチームについては、一律 2 万円（地元は1万円）とする。

■全日本470選手権大会への学生支援額

水域	江ノ島開催	浜名湖蒲郡・津開催	琵琶湖開催	西宮・和歌山開催	広島・境港開催	高松・小豆島 開催	福岡・佐賀開催
北海道	60000	60000	60000	60000	60000	60000	60000
東北	40000	50000	60000	60000	60000	60000	60000
関東	10000	30000	40000	40000	50000	50000	60000
中部	30000	10000	30000	30000	40000	40000	50000
近北・関西	40000	30000	10000	10000	30000	30000	40000
中国	50000	40000	30000	30000	10000	25000	30000
四国	55000	45000	35000	35000	25000	10000	30000
九州	60000	50000	40000	40000	30000	30000	10000

支出実績について

■トップ層の国際的な活躍に向けた支援

□2010 年　合計 20 万円
・石川裕也・柳川祥一（関東自動車工業）
・市野直毅・吉見亮平（セラヴィセーリング）

□2011 年　合計　30 万円
・石川裕也・柳川祥一（関東自動車工業）
・前田弘樹・野呂英輔（SPネットワーク）
・渡邊哲雄・八山慎司（SP ネットワーク）

■U22層の国際的な活躍に向けた支援

□2010 年（カタール・ドーハ：12 月）　合計 40 万円
・後藤・西山（関西大学）／銅メダル
・徳重・安田（日本経済大学）
・今村・内野（日本経済大学）
・土居・外薗（日本経済大学）

□2012 年（ニュージーランド：2月）　合計　40 万円（2011 年度予算）
・土居・磯崎（日本経済大学）
・今村・外園（日本経済大学）
・波多江・畑山（日本経済大学）
・波田地・牟田（明海大学・鹿屋体育大）

■江ノ島オリンピックウィーク』学割制度

□2010 年　15 万円
□2011 年　15 万円
□2012 年　6 万円

■全日本470級ヨット選手権大会　兼　全日本女子470級ヨット選手権大会の出場権および支援金制度

□2010 年　9 万円（個戦）＋4 万円（女子）＝13 万円
□2011 年　17 万円（個戦）＋8 万円（女子）＝25 万円
□2012 年　13 万円（個戦）＋8 万円（女子）＝21 万円

■全日本470級ヨット選手権大会　兼　全日本女子470級ヨット選手権大会の出場権および支援金制度

■2010全日本学生ヨット個人選手権大会

	出場権	支援金(案)	出場
1. 河合／小川(慶應大)	○	4万円	×
2. 大曲／伊勢木(関西大)	○	1万円	○
3. 飯束／外薗(日本経済大)	●	4万円	○
4. 横田／坂和(早稲田大)	○	2万円	○
5. 川添／市川(中央大)	○	2万円	○

○＝地元水域で権利獲得　●＝今回推薦

■2010全日本学生女子ヨット選手権大会

	出場権	支援金	出場
1. 徳重エリカ／安田真世(日本経済大学)	●	4万円	○
2. 藤井麻理／来栖佐和　園田美帆(日本大学)	○	4万円	×
3. 山口祥世／井上まなか／谷口柚香(早稲田大学	●	4万円	×
4. 後藤沙季／原口鈴加(関西大学)	○	1万円	×

■2011全日本学生ヨット個人選手権大会

	出場権	支援金	出場
1. 土居・磯崎組(日本経済大)	○	5万円	○
2. 岩下・橋口組(日本経済大)	○	5万円	○
3. 今村・内野組(日本経済大)	●	5万円	○
4. 後藤・田中組(福岡大)	●	2万円	○
5. 徳重・外薗組(日本経済大)	○	2万円	×

■2011全日本学生女子ヨット選手権大会

	出場権	支援金	出場
1. 松下・森本／陶山(関西学院大)	●	3万円	×
2. 山口・谷口(早稲田大)	●	3万円	○
3. 波多江・畑山(日本経済大)	●	5万円	○

■2012全日本学生ヨット個人選手権大会

	出場権	支援金	出場
1. 土居・石井組(日本経済大)	○	3万円	○
2. 今村・外薗組(日本経済大)	○	3万円	○
3. 岩下・磯崎組(日本経済大)	○	3万円	○
4. 山本・高瀬組(日本経済大)	○	2万円	○
5. 村田・東野組(同志社大)	●	※クルーが社会人	○
6. 波多江・畑山組(日本経済大)	○	2万円	○

■2012全日本学生女子ヨット選手権大会

	出場権	支援金	出場
1. 山口・谷口(早稲田大)	●	5万円	×
2. 濱田・西山(関西大)	●	3万円	○
3. 松下・中川(関西学院大)	●	5万円	○

○＝地元水域で権利獲得　●＝今回推薦

水域枠の運用についての案

1）ナショナルチームは水域枠から除く。
ジュニアワールド出場選手も出場権を与え、水域枠から除く。

2）他水域から参加した選手については、枠を与えない。

3）水域予選になんらかの事情で出場できなかった場合、過去の実績などにより実力が伴っていると判断されれば、水域会長の推薦により全日本に推薦できる。
ただし、本人より水域協会への意思表示が必要。

4）枠内の選手が辞退した場合、繰り下げる。どこまで繰り下げるかは、水域理事の選手の力量を鑑みて判断する。

5）女子枠は、水域枠を確定させた後で決定する。
水域枠とダブっていた場合、繰り下げはしない。
また、辞退した場合も繰り下げはしない。

6）水域予選でのチーム（スキッパー・クルー）のうち、スキッパーに枠の権利を与える。
※本来は水域予選のチームで全日本に参加すべきであるが、厳密に適用すると大学生の出場が難しくなるので。

①水域枠／水域選手権出場数＝1/3(33%) を目安とする
②全日本470に送り込んでいる艇数を考慮する
③関東は予選も合わせた艇数を考慮する(＋40～50艇)
④女子チームの艇数も考慮する

H20～24年水域別選手権出場艇数

ベースになる数字

平成 西暦	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23年 2011	H24年 2012	5年間 平均
北海道	12	9	7	12	11	10
東北	11	22	14		13	15
関東	75	71	69	69	74	72
中部			21	8	10	13
近北	31	34	28	29	53	35
関西	46	45	44	54	35	45
中国	19	14	21	12	22	18
四国	6	7	8	6	8	7
九州		23		18	21	21
合計	200	225	212	208	247	235

現状シェア　理論値

現在の水域枠	現在の水域枠(%)	5年間平均(%)	69艇×5年間平均(%)	新水域枠案	水域枠／水域選手権出場数(%)
3	4.3	4.3	3	2	20%
4	5.8	6.4	4	4	27%
23	33.3	30.5	21	22	31%
6	8.7	5.5	4	5	38%
10	14.5	14.9	10	11	31%
7	10.1	19.1	13	11	25%
5	7.2	7.5	5	5	28%
4	5.8	3.0	2	3	43%
7	10.1	8.8	6	8	39%
69	100.0	100.0	69	71	30%

■全日本470水域別出場艇数

2010年 全日本 (西宮)	2011年 全日本 (蒲郡)	2012年 全日本 (高松)
0	0	1
2	4	2
19	15	17
3	7	4
13	8	10
11	4	14
1	2	4
3	3	4
11	10	16
63	53	72

※NT・全日本チャンピオン枠除く

H20～24年水域別選手権出場艇数(女子チーム)

平成 西暦	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23年 2011	H24年 2012	5年間 平均
北海道	1	0	0	1	0	
東北						
関東	3	7	6	4	6	
中部			0	0	1	
近北	1	1	7	0	3	
関西	0	0	1	0	3	
中国	2	2	4	1	1	
四国						
九州						
合計	7	10	18	6	14	

現在の水域枠	新水域枠案
1	1
1	1
5	4
1	1
2	2
2	2
1	1
1	1
2	2
16	15

平成 25 年 4 月 7 日
全日本学生ヨット連盟

「全日本学生ヨット選手権大会」等における大会計測について（案）

全日本学生ヨット連盟の主催する「全日本学生ヨット選手権大会」、「全日本学生ヨット個人選手権大会」、「全日本学生女子ヨット選手権大会」（以下、全日本学生ヨット選手権と称する）の大会計測については、大会における公平性を担保するとともに、参加校の経費負担の軽減を考慮し、次のとおり扱うこととする。

1　計測実施方法

「全日本学生ヨット選手権」出場校の艇については、推薦水域において、オフィシャル・メジャラーが、大会計測として事前に艇及びセール計測を実施する。

オフィシャル・メジャラーは、大会計測を完了したことを証明するため「大会計測完了証明書」に計測数値及び計測日を記載のうえ署名する。

計測が完了したセール及び艇体については、オフィシャル・メジャラーが「大会計測済スタンプ」を押印するとともに計測日を記載する。

計測の実施時期は、該当する「全日本学生ヨット選手権」の開会式から１か月以内を基本とするが、具体的実施時期については、各水域の責任で決定する。

計測後に改造を行った場合は、各水域において、再計測を行うこととする。

計測を実施するオフィシャル・メジャラーは各大会のレース委員会がイクイップメント・インスペクターとして任命する。

2　計測内容

(1)　国際４７０級　　艇体計測及びセール計測を実施する。
(2)　国際スナイプ級　艇体計測及びセール計測を実施する。

3　計測証明書

各クラスの「大会計測証明書」については、別紙のとおりとする。

なお、オフィシャル・メジャラーは、「大会計測証明書」に署名するとともに、公認計測員認定番号を記載する。

4　大会計測の受付

大会の受付時に、「大会計測証明書」及び「艇体」、「セール」の「大会計測済スタンプ」をイクイップメント・インスペクターが確認することにより大会計測は完了とする。

なお、国際スナイプ級については、併せて学連艇用チェックリストを提出しなければならない。

5　大会期間中の計測

艇または装備はクラス規則と帆走指示書に従っていることを確認するため、いつでも検査されることがある。

6　大会開催時の自主計測環境の整備等

大会開催前に参加校が艇体重量の確認を実施できるよう、開会式前の期間において開催地において計測秤を準備し、各校が自ら確認できる環境を整えること。

7　実施時期

平成２５年度全日本学生ヨット選手権大会以降適用する。

なお、全日本学生ヨット個人選手権大会及び全日本学生女子ヨット選手権大会での適用については、平成 25 年 4 月以降、議論する。

8　計測に関する費用

計測の実施に必要な経費は、推薦水域学生ヨット連盟の負担とする。

9　各水域におけるオフィシャル・メジャラーの育成等

本計測方式が有効に機能するためには、各水域のオフィシャル・メジャラーの育成とレベルアップが必要です。

各水域において、各クラス協会、都道府県連等と連携のうえ、メジャラーの育成、レベルアップに努めること。

10　当面の措置

水域より、大会計測としての重量計測が実施できない場合は、当面、「全日本学生ヨット選手権」会場において実施することとし、大会参加申し込み日までに開催水域学生ヨット連盟に依頼することとする。

※アンダーラインは、平成24年11月3日の評議会の議論を経て、修正した項目

計測委員会報告事項

事務手続き報告

◆2012 年新艇登録状況

YAHAMA 艇　　28 艇

輸入艇　　5 艇

◆計測事務手続き件数

2011 年 12 月～ 2012 年 11 月 15 日現在

	名義変更	再発行	ISAF プラーク再発行	記載事項変更
2011 年	6	5	0	0
2012 年	21	32	10	10

◆計測事務局産休のお知らせ

担当飯島さんが、3児出産の為、計測事務手続きを基本的に12月～2月末まで行わない。

その間の申込みメール対応は京黒が行い、必要に応じて飯島が作業を行う様にする。

※手続き開始までに3～6回のメールやり取りが必要。

※レース参加等で、必要な場合は、協会より公示を出すか手続きを行う。

協会 HP にて『計測委員会諸事情により休止のお知らせ』とインフォメーションし、申込みは受付し、発行は 3 月以降に行う様にする。

◆計測委員会お問い合わせの件

協会 HP に掲載されているメールアドレス（戸張理事）への問い合わせが多いことから、掲載アドレスを WEB マスター問い合わせにし、それぞれの担当が対応してはどうだろうか？

◆ISAF インターナショナルメジャラー講習に参加

協会より、大庭、浅原、飯島が参加した。今回の講習会で資格を取得したのは4名で470計測委員では東島和幸氏が合格した。

◆今後の活動

・問い合わせが多い項目に対して Q&A の作成し、HP に掲載予定。

・パーソナルナンバーの件、今後対応出来る様にした。

本年、NT チームに1．4．12を貸出中。協会の対応が遅れているため、2013 年 3 月までは引き続き貸出する。

全日本実業団470活性化対策（案）要約版

1. 基本方針　　次の課題意識を三本柱として、改革を進める。

（1）現在の470に乗っている社会人をどう取り込むか

現在、社会人で470に乗っているが、実業団大会に出場してこない選手に対して、どのように働きかけ、出場するように仕向けるか。

（2）将来の470に乗る社会人をどう増やすか

これから社会人になる470乗り（要するに学生）に社会人になっても470を続けられるようにするためにどのように働きかけるか。

（3）将来の470を持つ企業をどう増やすか

現在、減少傾向激しい企業ヨット部の470保有数をどのように増やして行くか。

2．実業団としての方針

（1）現在の470に乗っている社会人をどう取り込むか

① 国体リハーサル、社会人トップクラスレベルの大会、アットホームな大会であることのアピール

② 社会人470セーラー（含む候補）の情報提供、チーム形成促進。

③ 実業団大会参加のための費用削減協力（チャーター艇確保など）

④ アピール方法

・実業団HPの充実、バルクヘッドマガジン、470協会のHPなど、ヨットの主だった媒体への投稿、Facebookなどの活用

・合同練習会開催

・ポスター作製、新聞への投稿、地方テレビ局への働きかけ。

（2）将来の470に乗る社会人(要は学生)をどう増やすか

① 実業団の紹介・宣伝

・リクルート活動、就活応援

・ヨット継続の意義強調

・学生向けにもなるHPコンテンツの検討

② 実業団活動への参加

・実業団の合同練習会、実業団予選大会への参加、全日本実業団選手権大会への参加などの呼び掛け。

③ 費用補助

・大会参加費用優遇、バッジテスト費用補助。

(3) 将来の 470 を持つ企業をどう増やすか

① 全日本実業団大会でスナイプと 470 の両方の成績を加味した「総合優勝」の創設

② 企業名が売れる実業団活動

4．全日本実業団選手権大会への参加 470 艇数の具体的な数値目標について

(1) 短期目標（来年の長崎大会）

・20 艇程度を確保。

(2) 中期目標（2 年から 5 年後までの期間について）

・20 艇から 30 艇を目指す。

(3) 長期目標（6 年後以降）

・40 艇以上を目指す

5．470 協会への協力要請事項

(1) 情報提供活動の支援

・協会 HP への紹介記事の掲載、実業団によるリクルート活動への協力、

・社会人 470 セーラーに関する情報提供。

・実業団大会への参加の勧誘。

(2) 合同活動の推進

・練習会、地方大会の合同開催。

(3) 艇の輸送に関する協力

・艇の輸送に関するとりまとめ、あっせん。　できれば、県連との連携を行って、安価な輸送への協力。

(3) チャーター艇のあっせん・確保

・九州大会において、10 艇程度のチャーター艇あっせん。

・将来的に、470 協会としてチャーター艇を保有することの検討。